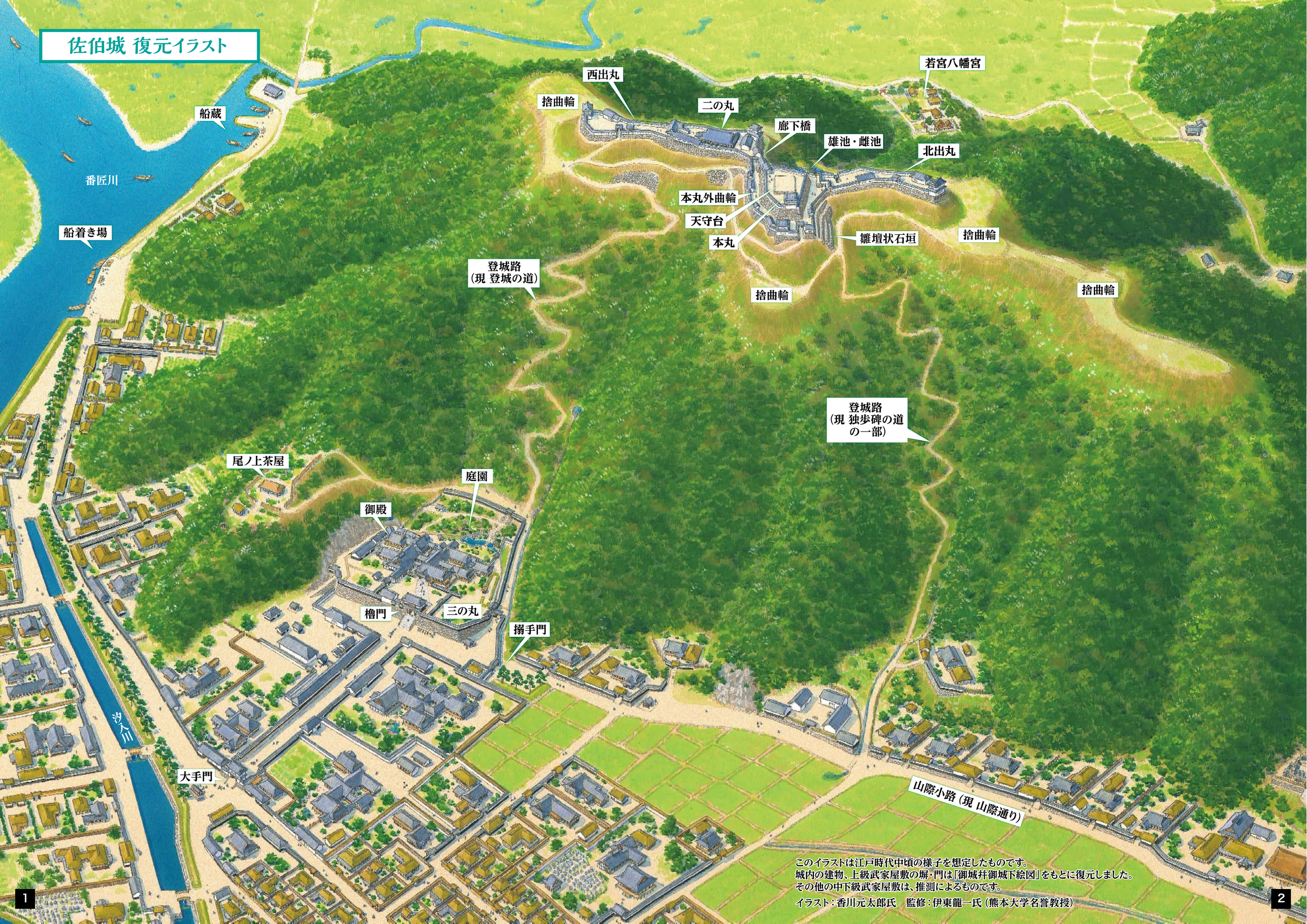
国指定史跡

佐伯城跡

御城幷御城下絵図（元文3年・1738作成、佐伯市歴史資料館所蔵）

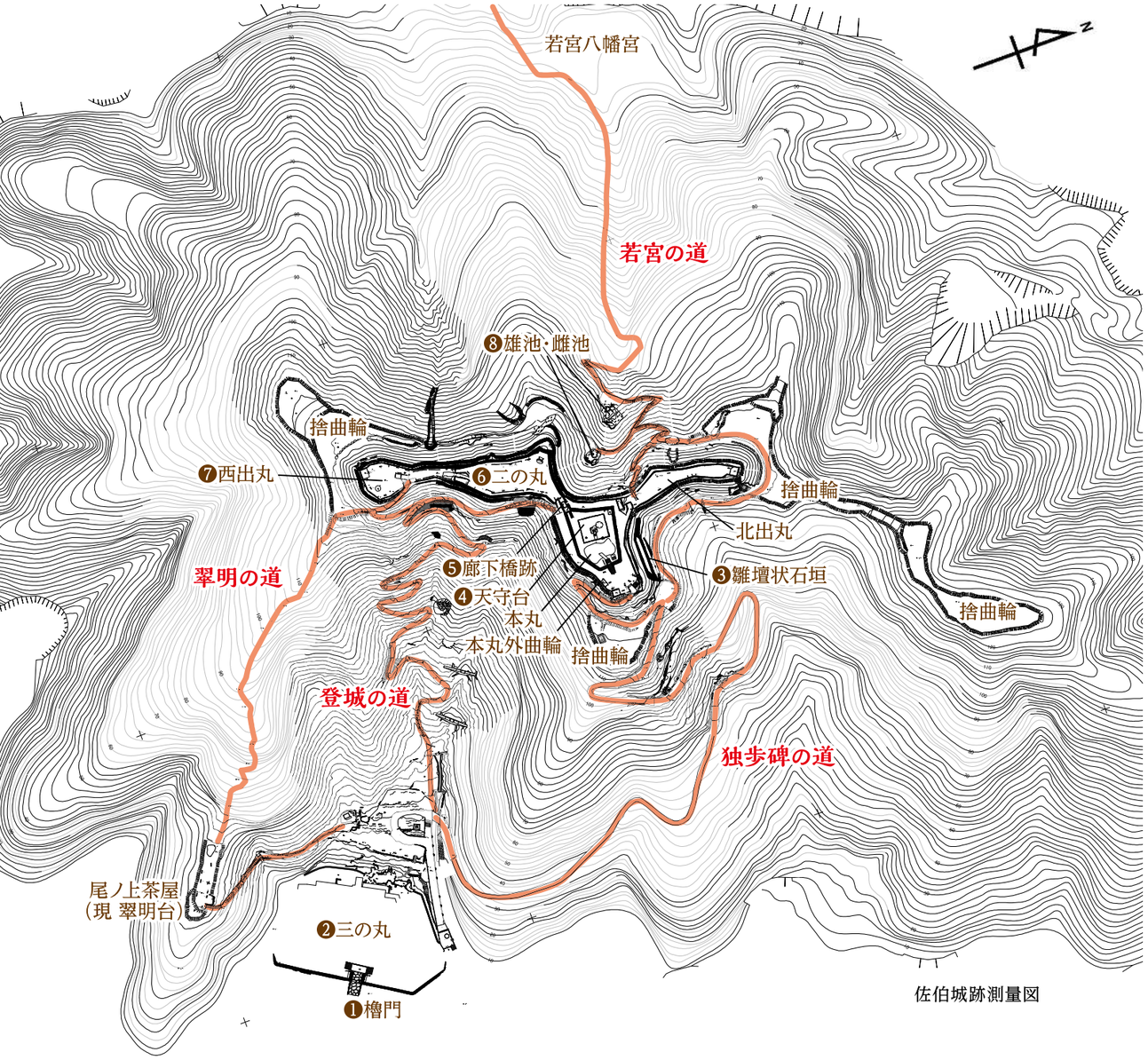
佐伯城 復元イラスト



このイラストは江戸時代中頃の様子を想定したものです。
城内の建物、上級武家屋敷の塀・門は「御城幷御城下絵図」をもとに復元しました。
その他の中下級武家屋敷は、推測によるものです。

イラスト：香川元太郎氏　監修：伊東龍一氏（熊本大学名誉教授）

佐伯城跡の概要



佐伯城跡測量図

佐伯城は、番匠川河口に位置し、豊後水道を見下ろす標高144mの城山（築城時は八幡山）に築かれた、江戸時代の山城です。慶長6年（1601）に初代佐伯藩主となった毛利高政（もうりたかまさ）が、翌年から藩政の拠点として築きました。

山頂部に石垣造りの本丸、本丸外曲輪（そとぐるわ）、二の丸、西出丸、北出丸を配置し、城の背後にあたる北西斜面には雄池（おんいけ）と雌池（めんいけ）を造っています。南東の山裾には三の丸を設け、藩の政治や藩主の日常生活の場としました。

佐伯城跡は、山頂の城郭と麓の館という中世山城の曲輪（くるわ）構造に、近世初頭に発達した石垣技術を融合させ、さらに江戸時代を通じて山全体を維持していくための工夫も残る貴重な城跡であることから、令和5年3月20日に国の史跡に指定されました。

見どころはココ!

三の丸櫓門

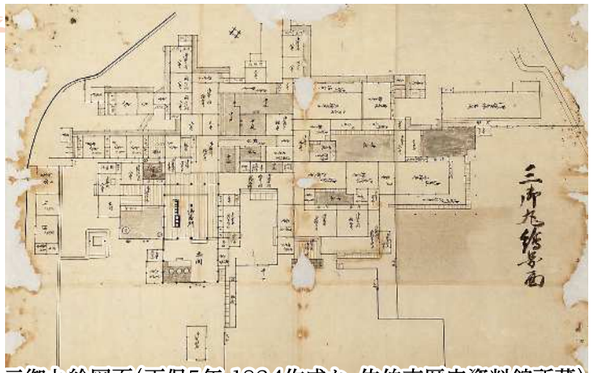
❶ 三の丸櫓門（やぐらもん）

寛永14年（1637）の建築後に2度建て直され、現在の櫓門は天保3年（1832）のものと伝わります。明治時代をむかえて城の建築物が解体されるなか、三の丸御殿とともに残されました。昭和50年（1975）の修理を経て、現在では唯一残る佐伯城の建築物として、大分県有形文化財の指定を受けています。

❷ 三の丸御殿と庭園

築城当初の三の丸の姿は不明ですが、寛永14年頃には現在のような曲輪が整えられ、御殿も建てられたと考えられます。明治時代以降、御殿は解体が進み、最後に残った玄関部分は昭和45年（1970）に船頭町に移築されました。

三の丸庭園跡



三御丸絵図面（天保5年・1834作成か、佐伯市歴史資料館所蔵）

三の丸御殿の背後には、藩主が御殿から観賞する庭園がありました。現在も石で囲まれた池跡があり、斜面には庭石や枯滝（かれだき）（石で表現する滝）と思われる石組みが残されています。石材の大きさや形を使い分け、池の左右で異なる風情が楽しめるよう設計されていたと考えられます。

雛壇状石垣

❸ 雛壇状石垣（ひなだんじょういしがき）

本丸外曲輪の北側斜面には、享保19年（1734）の風雨で崩れた斜面を復旧・保護するための、合計4段の雛壇状石垣があります。安芸（あき）国（現 広島県）から、干拓や港湾整備を得意とする石工（いしく）を招き、彼らが持つ技術と城郭で用いる石垣技術を融合させて築いたことが分かりました。城だけでなく山全体も守る、佐伯藩の努力の結晶です。

天守台石垣

❹ 天守台

築城時の佐伯城には「三重、南向き」の天守があったと伝わりますが、詳細な資料は残されていません。遅くとも18世紀以降は現在のような天守台のみとなっていました。しかし、城の修理に関わる儀式の場として使用されるなど、佐伯藩にとって重要な場所でした。

❺ 廊下橋跡

佐伯城の本丸と二の丸は、廊下橋（屋根と塀をもつ橋）で連結されており、江戸時代には本丸への唯一の入り口でした。この周辺は登城路から本丸への通路が複雑に入り組んでおり、山頂の限られた面積を有効に使って防御力を高める工夫がよく分かります。

廊下橋跡周辺

御城幷御城下絵図（部分）

❻ 二の丸屋形（やかた）

二の丸の中央には、屋形（居宅（きょたく）とも）と呼ばれる建物がありました。佐伯城の大規模修理の一環で享保13年（1728）に建てられたとみられ、翌年正月からは藩主と重臣らが年始のお祝いの場として使っています。屋形は延享元年（1744）に失われた可能性がありますが、正月行事は場所を二の丸平櫓に移して、幕末まで続きました。

❼ 西出丸

西出丸南西の二重櫓跡は、石垣がクランク状に曲がっています。本来はまっすぐに伸びていましたが、安政元年（1854）の大地震で、石垣を支える岩盤まで崩れたため、櫓を少し内側に移動させ、このような形となりました。山城を維持する難しさが伝わってきます。

西出丸二重櫓跡の石垣

見どころはココ!

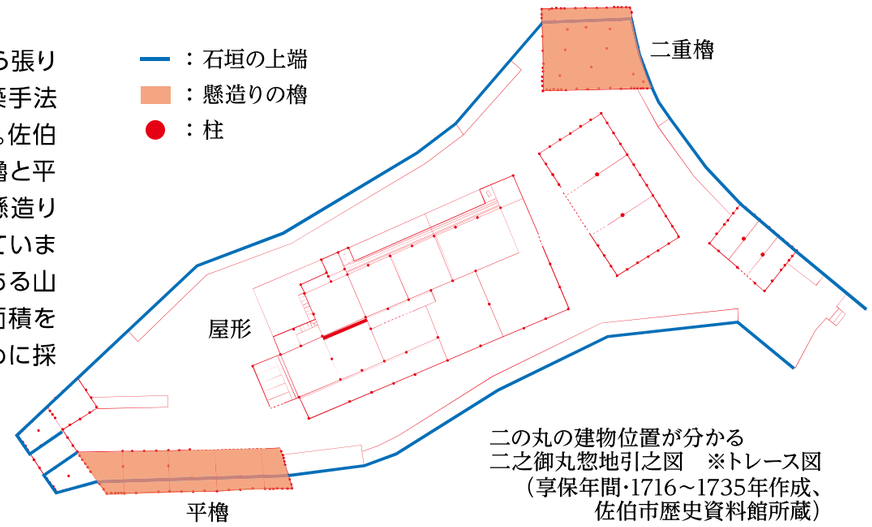
❽ 雄池（おんいけ）・雌池（めんいけ）

本丸から北西側の斜面には、雄池と雌池と呼ばれる上下二段構えの人工池があります。山頂で使う水の確保だけでなく、谷に集まる雨水の排水を調整することで、斜面の崩落を防ぐ機能もあったと考えられます。毛利高政が、現代の治山（ちさん）にも通じる高度な知識を持っていたことを示しています。

雄池

山上の櫓は懸造（かけづく）り

建物を石垣や崖から張り出すように建てる建築手法を、懸造りといいます。佐伯城では、二の丸二重櫓と平櫓、北出丸二重櫓が懸造りだったことが判明しています。地形上の制約がある山頂で、石垣の内側の面積を少しでも確保するために採用された技術です。



二の丸の建物位置が分かる
二之御丸惣地引之図　※トレース図
（享保年間・1716～1735年作成、
佐伯市歴史資料館所蔵）

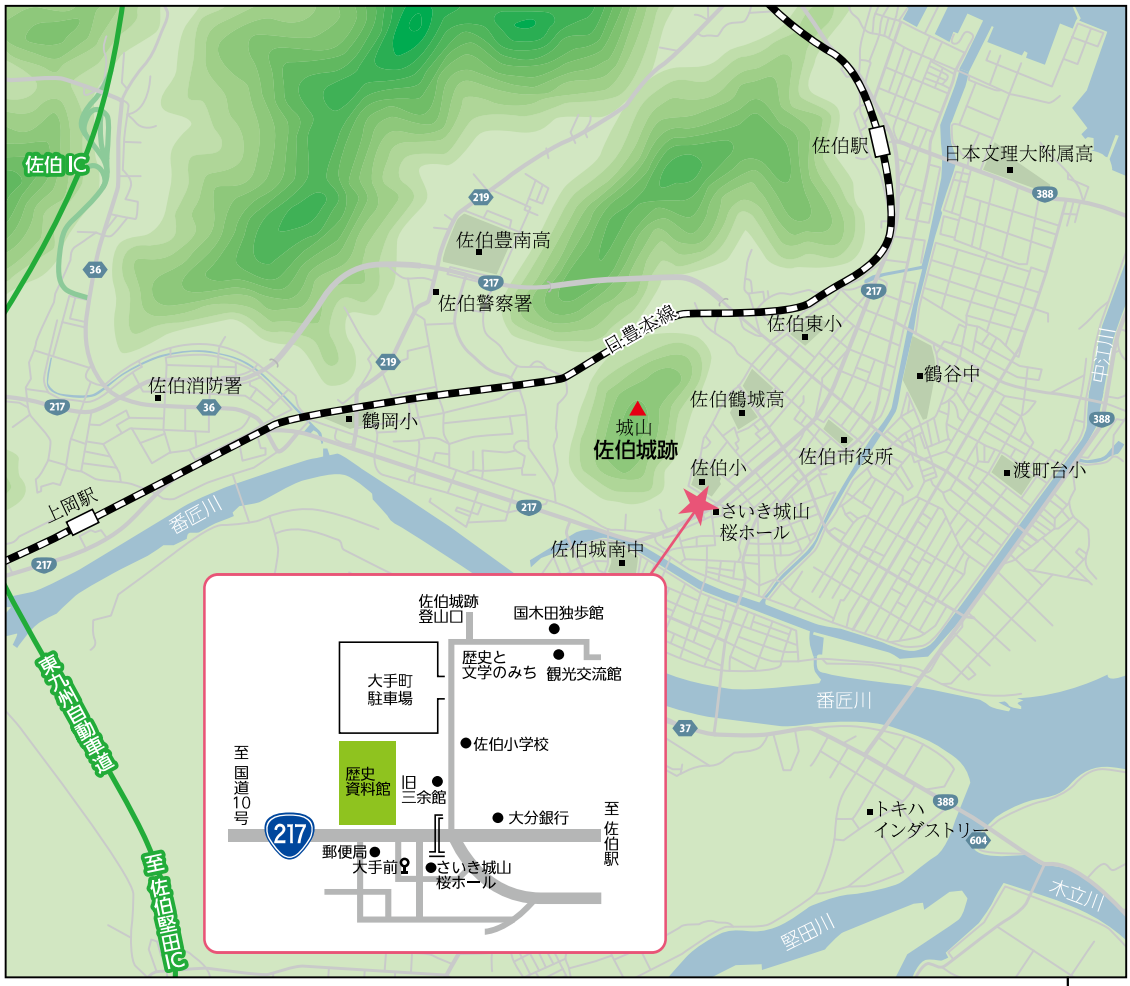
豊後水道を望む山城

佐伯城跡と佐伯湾・豊後水道

本丸付近から望む佐伯市街地と佐伯湾

佐伯城跡の本丸付近からは、旧城下町である市街地を一望できます。天気が良い日には、遠く豊後水道を挟んだ四国の山影が見えることもあります。江戸時代の海岸線は今よりもずっと近くにあり、海とのつながりを意識して佐伯城が築かれたことが分かります。

佐伯市中心部MAP



登山口までのアクセス

●公共交通機関をご利用の場合

JR佐伯駅からバスで約6分、「大手前」下車
徒歩約5分

●車をご利用の場合

東九州自動車道「佐伯IC」から車で約15分、
「佐伯堅田IC」から車で約15分

駐車場は佐伯市歴史資料館隣の
大手町駐車場をご利用ください。

アクセス

車	福岡	2時間	大分	40分		佐伯
車	宮崎	2時間	延岡	1時間		佐伯
列車	博多駅	50分	小倉駅	2時間30分		佐伯駅
列車	JR日豊本線 宮崎駅	1時間	延岡駅	1時間		佐伯駅
飛行機	東京	1時間30分	大分空港	空港バス利用 1時間40分		佐伯
飛行機	大阪	1時間	大分空港	空港バス利用 1時間40分		佐伯

佐伯市歴史資料館

〒876-0831
大分県佐伯市大手町1丁目2番25号

TEL 0972-22-0700
FAX 0972-22-0701

公式HP